

令和元年8月27日

第69次 印旛地区教育研究会
特別支援教育分野

研究主題

特別支援学級における道徳教育の在り方

～資料の精選と評価について～



第4部会 特別支援教育研究部

八街市立実住小学校 田原 康介
八街市立交進小学校 梁川 瞳
八街市立八街中央中学校 熱田 公美子

特別支援学級における道德教育の在り方
～資料の精選と評価について～

1. 主題設定の理由

【①「特別な教科 道德」道德の教科化から】

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」において、改訂の経緯には、

教育基本法第1条に示されている『人格の完成』『心身ともに健康な国民の育成』の基礎となるものが道德性であり、その道德性を育てることが学校教育における道德教育の使命である。

と書かれている。

平成29年3月31日に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を踏まえ、小学校学習指導要領の全面改訂が行われた。

『3 改訂の要点（3）第3 指導計画の作成と内容の取扱い』クに、

道德科の評価に関して、数値などの評価は行わない点に変わりはないが、学習状況や道德性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

と書かれており、成長の様子を把握していくための方法を考えていく必要がある。

『第2章 道德教育の目標 第1節 道德教育と道德科』の末節に、

道德科においては、発達段階を前提としつつも、指導内容や指導方法について考える上では、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することも重要となる。児童の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切に指導を行うことが可能となる。

と書かれている。特別支援学級においては、学級に在籍している児童・生徒の実態を個別の指導計画で捉えており、児童・生徒に適切な価値項目を選択し、題材や資料を精選して授業を進め、評価をしていく必要がある。

『第2節 道德科の目標 2 道德性を養うために行う道德性における学習』（1）道德的諸価値について理解する」には、

児童が今後、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道德的実践を行うためには、道德的価値の意義及びその大切さの理解が必要になるとして、以下の3点が示されている。

①内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

②道德的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

③道德的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

この内容は、自立活動の目標や内容にも関連するところがあり、自立活動のめざす「自立を目指し」「調和的発達の基盤を培う」ことが全人的な発達の促進、すなわち道德的実践力を養うことにも重なりと考える。

「（2）自己を見つめる」項目には、

自己を見つめるとは、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めること。

と書かれており、これまでの生活を振り返り、さらに今後の生活をより良くしていくために考えることが大切であることが示されている。

(5)『発達障害等のある児童や海外から帰国した児童、日本語習得に困難のある児童等に対する配慮』には、

評価を行うに当たっても、困難さの状況ごとの配慮を踏まえることが必要である。

配慮を伴った指導を行った結果として、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童が多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかといったことを丁寧に見取る必要がある。

一人一人の障害により、学習上の困難さの状況をしっかりと踏まえた上で行い、評価することが重要である。

道徳科の評価は他の児童との比較による評価や目標への到達度を測る評価ではなく、一人一人の児童がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うことから、このような道徳科の評価本来の在り方を追求していくことが、一人一人の学習上の困難さに応じた評価につながる。

と書かれている。個に応じた評価、児童生徒の実態への配慮はここにも述べられ、その重要さが示されている。

特別支援学級では、個別指導計画をもとに個々の課題を把握し、学級内外の児童・生徒間の関係を観察し、計画を作り直していくことが重要である。これまで述べてきた、指導要領の記述からも道徳の授業計画と評価は、自立活動と重なるところがあり、道徳の学習は、特別支援教育の自立活動の思考部分であるといっても過言ではない。自立への過程を明文化したものが道徳科の評価ともいえる。

これまで同様に、一人一人を丁寧に見取ることを大切に、小さな変化を見ていくことが大切であることがわかる。

【②特別支援学級に在籍している児童・生徒の実態から】

特別支援学級に在籍している児童・生徒は、実態が多岐にわたっており、それぞれに生活上・学習上の困難さを抱えている。そのため、一人一人の実態に応じて「個別の指導計画」を作成し、学習に取り組むことになっている。

生活面においては、「衣服の調節が苦手」「忘れ物が多い」などの不注意や感覚の鈍麻、「髪の毛を結ぶことが苦手」といった手先の不器用さ、「おどおどしてしまい自分から行動することが苦手」といった自信のなさ、「食べ物の好き嫌いが多い」といった偏食、「イライラしやすく、言葉遣いが悪い」などの困難が見られている。

学習面においては、「文字を丁寧に書くことが苦手」「両手指の数以上になると、計算ができない」「文章は読めるが、内容が理解できない」などが挙げられる。

周囲との関わり・行動面においては、「ルールを守って、友達と遊ぶことが苦手」「相手のことを考えず、すぐに言葉を発してしまう」「相手の話を聞くことが苦手」「自分中心の考え方をしてしまう」「相手を待たせていても、気になっていない」「ふらふらと動き回ってじっとしてられない」「自分がやりたかったことができないと、急に怒ってしまう」などが挙げられる。

身体面においては、「はさみやのりなどを使った細かい作業が苦手」「座っている姿勢が維持できない」「マヒによる全身のふるえ、筋肉の収縮」などが見られる。

一人一人の実態に応じた数の分だけ、困難さも多様である。そこで、そのような生活上・学習上の困難さを克服・改善し、児童・生徒がよりよく生きていくための礎となるものを積み重ねていかなければいけないと感じていた。道徳科の授業を通して、児童・生徒の困難さを少しでも改善・克服し、

社会生活をより豊かに送っていけるようにするため、児童・生徒の実態に応じた適切な学習を行い、評価をしていくことが必要である。道徳科の学習を通して道徳的判断や、行動ができるようにすれば、よりよい生活を送ろうとする健全な人生観を育むことができるのではないかと考える。

そこで、どのように題材を選定し、授業に取り組んで評価を行い、どのような視点で評価をしていくかを明確にしていく必要があると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説1 児童の実態に応じて、道徳の価値項目を選択し、資料・題材を選定して実践を積み重ねていけば、日々の生活の中で役立つ力が身に付くだろう。

仮説2 横断的・縦断的に評価をできるように価値項目を選択し、行動を見取る場面を選択して評価を積み重ねていけば、個々の児童・生徒の変容を捉えることができるだろう。

【仮説1について】

道徳科の学習に限らず、特別支援学級に在籍している児童については、個々の児童の実態に応じて個別の指導計画を作成し、学習を進めていくことになっている。そこで、道徳科の学習においても、児童の実態に応じて価値項目を選択し、児童の実態に合わせた資料・題材を用いて学習することで、日常生活で役立つ実践力が身についていくのではないかと考える。さらに、現在使用している検定教科書だけではなく、他の地域で採択されている検定教科書を用いたり、絵本や他の題材を用いたりすることで、幅広く児童の実態に合わせた資料・題材の選択ができるものとする。

【仮説2について】

一人一人の児童が、その学習をすることによって、いかに成長したかを積極的に励ましていけるようにしなければならない。同じ価値項目の学習を連続して行うような工夫をしたり、学習時間だけではなく、その後の行動を見取ったりしていく必要があると考える。そこで、道徳の時間の年間計画を作成するとともに、どのような場面で変容を見取っていくのか計画を立てておく必要があると考える。

3. 研究内容

○価値項目の選択（小学校；1～3年生程度の学習内容、中学校；児童の実態に応じて）

※児童の実態に応じて、資料・題材を選択していく必要がある。

○年間を通して行う、授業内容の計画

※4つの内容項目、「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を児童の実態に応じて指導することになるが、偏りがあっても、全ての内容項目に触れることが望ましいと考える。

○児童の考えの変容がわかる授業記録のまとめ

※ワークシートの工夫による、児童の考えの記録 ※わかりやすい板書の工夫

○児童の継続的な観察による行動評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握するため、道徳ノートやファイル等を利用して、学習状況を積み重ねる。

※ノート及び道徳ファイルの作成による学習の積み重ね

※価値項目に関係する、児童の行動の見取り（どのような場面で見取っていくのかを確認しておくことで、評価をしやすくする）

4. 実践経過

◎実住小学校での実践（平成 30 年度及び平成 31 年度）

まずは、平成 30 年度から小学校において全面実施をすることになったことから、「道徳の授業」として学習を位置づけ、「考える」ことを行った。

- A 主として自分自身に関すること。・・・6時間
- B 主として人との関わりに関すること。・・・2時間
- C 主として集団や社会との関わりに関すること。・・・7時間
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること。・・・3時間

【平成 30 年度の実践（実住小学校）】

実施日	題材名	項目番号	価値項目	出版学年	見取りの中心場面
H30. 6. 1	おばけ学校のきまり	C-10	規則の尊重	文溪堂 2年	日常生活全般
H30. 6. 8	ロバを売りにいく親子	A-3	節度、節制	教育出版 3年	日常生活全般
H30. 10. 12	どうしていけないのかな	B-8	礼儀	教育出版 3年	人と関わる場面、交流学級へ活動に行く場面
H30. 11. 16	悪いのはわたしじゃない	C-11	公正、公平、社会正義	教育出版 3年	友達と関わる場面
H30. 11. 30	新聞関係	C-10	規則の尊重	教育出版 3年	係活動、日直などの当番活動
H30. 12. 7	まどガラスと魚	A-2	正直、誠実	教育出版 3年	日常生活全般
H30. 12. 14	よわむし太郎	A-1	善悪の判断、自律、自由と責任	教育出版 3年	日常生活全般
H31. 1. 11	楽しめばすきになる	A-5	希望と勇気、努力と強い意志	教育出版 3年	学習、運動などの活動中
H31. 2. 1	ヒキガエルとロバ	D-17	生命の尊さ	教育出版 2年	生活単元学習（植物の栽培） 日常生活全般
H31. 2. 15	いただきます	D-17	生命の尊さ	教育出版 2年	給食、調理実習
H31. 3. 1	絵本 いのちをいただく～みいちゃんがお肉になる日～	D-17	生命の尊さ	講談社	給食、調理実習

◎年間計画の作成

平成 30 年度の実践を経て、児童の実態に応じて、計画的に実践を進めていけるように年間計画を作成した。年間計画の作成は、児童の実態から「教育出版 小学どうとく3 はばたこう明日へ」の年間指導計画を参考にして行った。そして、どのような場面で、児童の変容を見取っていくのかも計画し、変容を積み重ねていけるようにした。

【実住小学校 知的障害特別支援学級1組「特別の教科 道徳」年間指導計画表】

月	教材名	ねらい【価値項目】	見取りの中心場面
4月	道徳の学習をはじめよう	道徳の学習において、「考える」ことを意識して取り組み、自己を見つめ、よりよい自分に成長することのよさを考え、自分を伸ばしていく意欲をもつことができるようになる。	日常生活全般
	るっぺ どうしたの	わがままな行動をせず、規則正しい生活を送り、周りの人のことも考えて行動することができるようになる。 【A 節度, 節制】	日常生活全般 人と関わる場面
	おそろしい ゲームいぞん	自分から生活を整えて、安全に気をつけて節度のある生活を送ることができるようになる。 【A 節度, 節制】	日常生活全般
5月	気づく心	相手のことを思い、親切にすることのよさに気づき、進んで親切にすることができるようになる。 【C 勤労, 公共の精神】	人と関わる場面
	えがおいっぱい	楽しい学級や学校を、みんなで協力し合ってつくることができるようになる。 【C より良い学校生活, 集団生活の充実】	友達と関わる場面 日常生活全般
6月	れいぎ正しい あいさつ	礼儀正しい挨拶の仕方を、日常生活のさまざまな場面で実践することができるようになる。 【B 礼儀】	日常生活全般 交流学級へ活動に行く場面
	ゆかみがき	自ら働くことの大切さを感じながら、集団の一員として自分の役割を積極的に果たすことができるようになる。 【C 勤労, 公共の精神】	日常生活全般 係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動
	ドッジボール 大会	誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正・公平に接することができるようになる。 【C 公正, 公平, 社会正義】	日常生活全般 学習, 運動などの活動中
7月	ぴっかぴか	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くことができるようになる。 【C 勤労, 公共の精神】	日常生活全般 係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動
9月	はりきりパンダ とだらだらパンダ	怠けたいという気持ちに負けないで、自分のやるべきことを、強い意志をもって行うことができるようになる。 【A 希望と勇気, 努力と強い意志】	日常生活全般 係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動

	エイサーの心	郷土の伝統や文化に親しみをもち、地域に積極的に関わることができるようになる。 【C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】	創立記念等の学校行事, 地域と関わる行事
10月	三本のかさ	礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもった態度で接することができるようになる。 【B 礼儀】	日常生活全般 交流学級へ活動に行く場面
	とおるさんのゆめ	自分のよいところに気づき, そのよいところを伸ばすことができるようになる。 【A 個性の伸長】	日常生活全般 係活動, 日直などの当番活動
	ぼくらしさってなんだろう	自分の特徴に気づき, よいところを伸ばすことができるようになる。 【A 個性の伸長】	日常生活全般 係活動, 日直などの当番活動
11月	ぼんたとかんた	物事のよいことと悪いことを区別し, よいと思うことを進んで行うことができるようになる。 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】	日常生活全般
	自分をコントロール	正しいことと悪いことを的確に判断し, よいと判断したことは, 自信をもって行うことができるようになる。 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】	日常生活全般
	ぼくもがんばるよ	家族とともに支え合うことを大切にし, 自分でできることは, 自分で行ったり, 進んでお手伝いをしたりすることができるようになる。 【C 家族愛, 家庭生活の充実】	日常生活全般 係活動, 日直などの当番活動
12月	ありがとうはだれがいう?	日頃お世話になっている人々から受けた善意に対して, 感謝の念をもって挨拶することができるようになる。 【B 感謝】	日常生活全般 交流学級へ活動に行く場面
	公園のひみつ	自分たちの生活を支えてくれている高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接することができるようになる。 【B 感謝】	日常生活全般
1月	せい長かいだん	生命の尊さを体全体で感じ取り, 生命あるものの全てを大切にすることができるようになる。 【D 生命の尊さ】	日常生活全般 生活単元学習 (植物の栽培)
	光祐くんのアサガオ	生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすることができるようになる。 【D 生命の尊さ】	日常生活全般 生活単元学習 (植物の栽培)
2月	たっ球は四人まで	友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うことができるようになる。 【B 友情, 信頼】	日常生活全般 友達と関わる場面
	おいしいきゅう食	日頃お世話になっている人々の存在に気づき, 感謝することができるようになる。 【B 感謝】	日常生活全般

3月	大切な国旗と国歌	身近なスポーツの国際大会を通じて、他国の国旗や国歌に親しむことができるようになる。 【C 国際理解, 国際親善】	外国語の学習 日常生活全般
	一年間を振り返ろう	一年間の道徳の学習を振り返り、「考える」ことを通して、自己を見つめ、よりよい自分に成長することのよさを考え、自分を伸ばしていく意欲をもつことができたかを考える。	日常生活全般

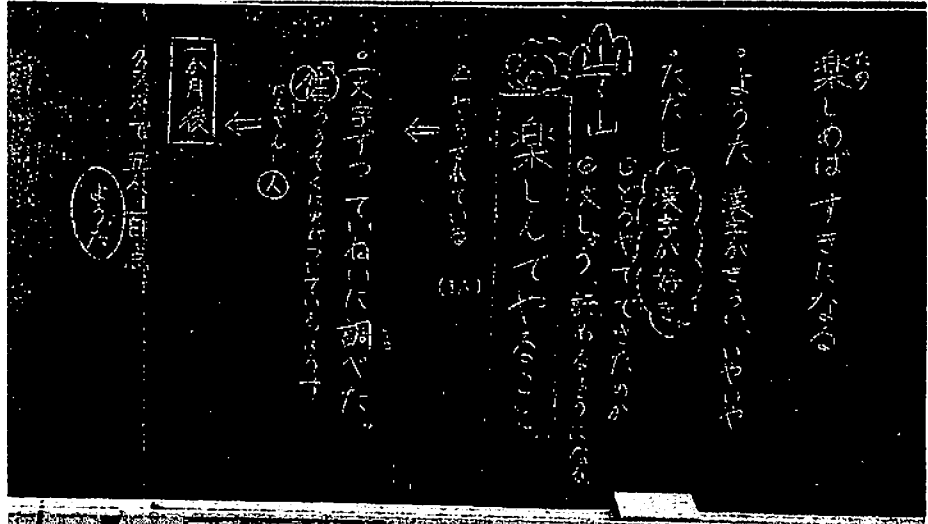
【平成31年度の実践（実住小学校）】

実施日	題材名	項目番号	価値項目	出版学年	見取りの中心場面
H31.4.12	るっぺどうしたの	A-3	節度, 節制	教育出版 2年	人と関わる場面, 友達との会話, 行動
H31.4.19	はりきりパンダとだらだらパンダ	A-3	節度, 節制	教育出版 2年	日常生活全般 係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動 学習中の様子
R1.5.23	えがおいっぱい	C-11	公正, 公平, 社会正義	教育出版 3年	友達と関わる場面（休み時間や学習中） 日常生活全般
R1.5.31	ゆかみがき	C-12	勤労, 公共の精神	教育出版 2年	係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動
R1.6.4	ドッジボール大会	C-11	公正, 公平, 社会正義	教育出版 3年	日常生活全般 学習, 運動などの活動中
R1.6.5	ぴっかぴか	C-12	勤労, 公共の精神	教育出版 3年	係活動, 清掃活動, 日直などの当番活動
R1.6.14	気づく心	B-6	親切, 思いやり	教育出版 3年	人と関わる場面（友達や周りの人への話し方, 接し方）

- 「おそろしいゲームいぞん」の題材は、その前の週に行った「るっぺどうしたの」の学習において児童の反応がよく、どのように生活をしていけばよいのかを理解できていて、その後の生活の様子や学習の様子からも、自分で考え、行動することができる姿が見られたため、同じ価値項目のため実施しなかった。今後、児童の生活の様子を見て、行うことを考えている。
- 「れいぎ正しいあいさつ」の題材は、1学期は実施しなかった。実住小学校では生活目標として、「あいさつ」の取り組みを行っている。その取り組みにおいて、「明るく、元気よく、相手より先にあいさつをする」という項目があるが、ほとんどの児童がしっかりできていたことから、1学期は実施しないことにした。

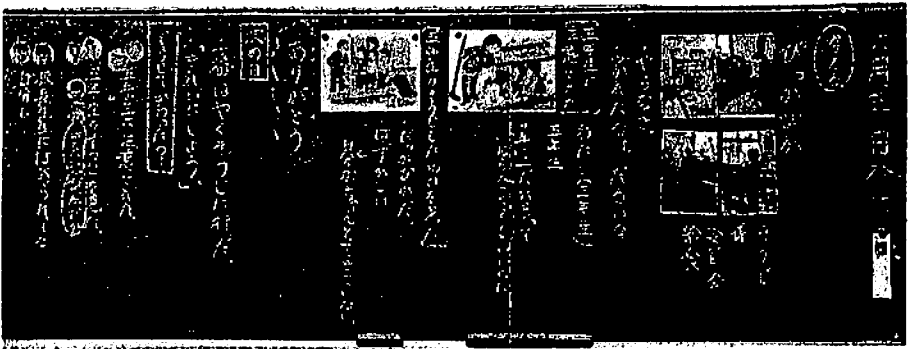
◎実践記録

①【H31.1.11 実施】

<p>学年（知的・情緒） 児童の実態 「個別の指導計画の 目標」</p>	<p>5年生2名，6年生4名在籍 ・対象の中心児童；6年A児（知的） ・毎日の宿題やお手伝いを，はじめは進んで行っただが，すぐに飽きてしま い続かなくなってしまう。 「自分のやるべきことを最後まで行うことができる。」</p>
<p>価値項目の選定</p>	<p>努力と強い意志</p>
<p>教材（学年）の選定</p>	<p>楽しめばすきになる（教育出版3年）</p>
<p>授業実践（主発問◎）</p>	<p>・あなたが，今，楽しんで行っていることはなんですか。 ◎なぜ，楽しんで行っているのでしょうか。</p>
<p>児童の反応がわかる授 業記録のまとめ（発言や ノート記述，ワークシー ト等）</p>	<p>（発言） ・テレビゲームが楽しい。⇒どんどん敵を倒して，レベルアップするのが おもしろいから，楽しんでやっている。 （ワークシート） ・これからは，何でも楽しんでやれるようにしていきたい。</p>
<p>児童のその後の行動の 変容（行動評価）</p>	<p>・宿題を続けてやれるようになってきた。（毎日提出しているが，家の人 に手伝ってもらっていることもある。） ・連絡帳に母から「自分で宿題のプリントを出して，やるようになった。 雑になってしまうこともあるが，最後まで頑張っている。」とあった。 ・毎日ではないが，家の手伝いもするようになってきた。</p>
<p>板書写真（ワークシー ト，資料写真等）</p>	

○対象にしていたA児は，今回の授業を行ったことで，何に対しても前向きに取り組もうという姿が見られるようになってきた。毎日の宿題や音読練習，家での手伝いもするようになったということであ
った。

②【R1.6.5 実施】

<p>学年（知的・情緒） 児童の実態 「個別の指導計画の 目標」</p>	<p>5年2名，6年6名在籍 ・対象の中心児童；5年B児（知的） ・疲れてしまうと何もやりたがらなくなり，その場で座り込んでしまったり，イスに座って動かなくなってしまったりすることがある。清掃活動においても同じで，自分の気分しだいでやらなくなってしまうことがある。 「自分に任された仕事を最後まで行うことができる。」</p>
<p>価値項目の選定</p>	<p>勤労，公共の精神</p>
<p>教材（学年）の選定</p>	<p>びっかびか（教育出版3年）</p>
<p>授業実践（主発問◎）</p>	<p>・5年生に「きちんと掃除をしなくてはだめだよ。」と言われたとき、「わたし」はどんな気持ちだったと思いますか。 ・5年生が掃除したびっかびかの床を見て、「わたし」はどんなことを考えていましたか。 ◎どうして「わたし」は変わったと思いますか。</p>
<p>児童の反応がわかる授業記録のまとめ（発言やノート記述，ワークシート等）</p>	<p>（発言） ・やっぱりきれいな方がいいと思う。一生懸命自分の仕事をしなければいけないと思う。 （ワークシート） ・きれいになると，みんなが気持ちよくすっきりする。 ・みんなが使いやすくなる。</p>
<p>児童のその後の行動の変容（行動評価）</p>	<p>・毎日の清掃活動では，「黙働」のきまりを守り，懸命に取り組めるようになった。</p>
<p>板書写真（ワークシート，資料写真等）</p>	

○B児は，清掃活動の時間になると，八街中央中学校区で取り組んでいる清掃「黙働」のきまりを守り，清掃活動に取り組むようになった。また，自分の気分によって清掃に取り組まないということもなくなり，15分間という清掃時間いっぱいまで，活動ができるようになってきている。

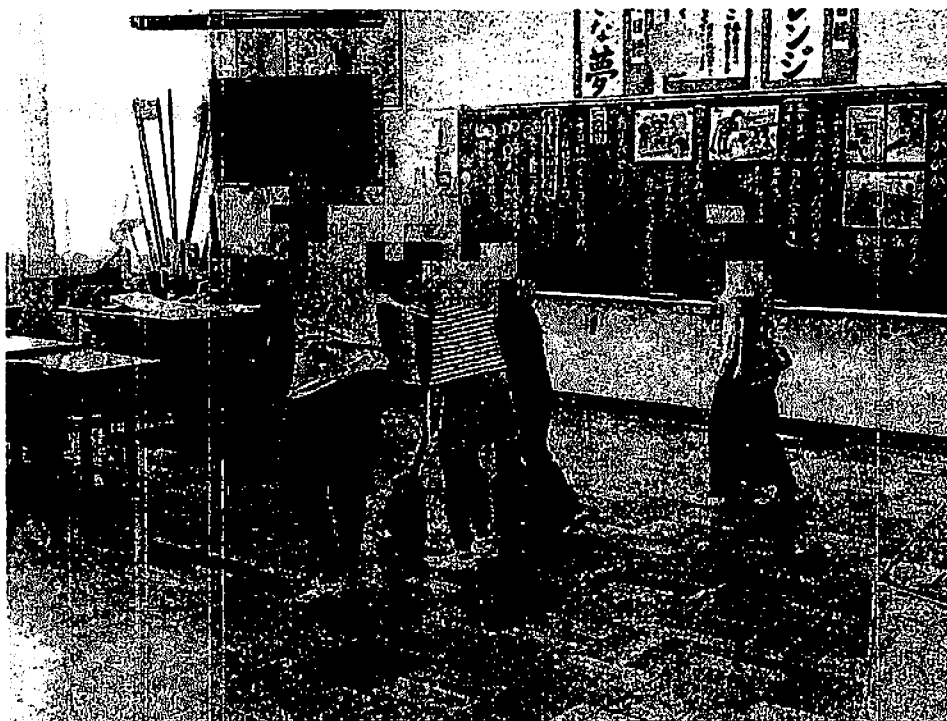
○児童の事前の清掃活動の姿を写真にとって提示することによって，普段の取り組みの様子が分かりやすいように工夫をした。それによって，児童が自分のことだと認識し，懸命に「考える」ことができていた。

◎授業後の清掃活動の様子



上；今回対象の中心児童（B児）の写真

下；今回対象の中心児童ではなかったが、清掃時間中におしゃべりをしてしまうことが多く、自分の仕事に集中して取り組めていなかった児童の写真（左から2番目）



◎評価について

評価については、以下の表をもとに、「学習中の様子」「学習後の日常の変容」を記録していった。同じ価値項目を行った場合には、同じ項目欄に付け加えていくことで、変容が分かるようにした。

(例)【B児の道徳科の 評価】

価値項目	題材名	発言や会話	態度や表情	ノートへの記述	動作化や発表演技 (パフォーマンス)	日常生活の様子 やエピソード	自己評価
○ 節度, 節制	・るっぺどうしたの ・はりきりパンダと だらだらパンダ	自分のことは自分でや らないとためだと思う。		先のことを考えて、自 分で行動できるように した方がいい。			☺ 自分のことは自 分でやらなけ ればいけないと 考えることがで きた。
公正, 公平, 社会正義	・えがおいっぱい ・ドッジボール大会	思いやりのあるクラス がいい。 男子とか女子とかは関 係ない。		目標がなかったら、 みんながどうやってい けばいいのかわから ない。 女子は弱いつて決め ていたのが、いけな かったと思う。	「決めつけてごめん ね。」とやさしい言葉 で言うことができた。	みんなで遊ぶと きには、「遊ぼ う」と声をかける ことができた。	
○ 勤労, 公共 の精神	・ゆかみがき ・ぴっかぴか	ぴかぴかにしないとみ んなが困っちゃう。 きれいになると、すっき りした気持ちになる。	発表の場面 では、真剣な表 情で話をしてい た。	自分がよごしたのに やってもらったから、 じぶんもやらないと。		「黙働」で清掃活 動に取り組めて いる。	◎ みんなで協力 して、きれいに しいかなけれ ばいけないと思 った。
親切, 思い やり	・気づく心	気になったことがあっ たら、声をかけてあげ たほうが、すっきりす る。	笑顔で友達に 話をする姿が 見られた。	自分が最初から気にな っていたことがなく なったから、いい気持 ちになった。	「どうしましたか。」と 相手の目線で話し かけることができた。		

☆(個別の指導計画にある目標に絡むものには○)

5. 結論

【成果】

- 学習を系統的に進めていくために、価値項目や資料・題材を精選することによって、児童の日常生活に変化が見られ、生活の改善がみられるようになった。
- 学習の時間の中で「考える」時間を設けることによって、日常でも選択場面において「考える」ことを行うようになり、落ち着いて考え行動する機会が増えた。
- 児童の変容の兆しを教師が見逃さず、目配り・声かけをしていくことで、児童・生徒も「見てくれている」「頑張らなければ」という気持ちになり、生活に変化がみられるようになった。

【課題】

- 児童の実態に合わせて価値項目を選定したため、学習した項目間に時数の差が出てしまった。児童の実態に合わせた指導は必要であるが、バランスよく項目を選定していく必要がある。
「B 主として人との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の項目が少なくなってしまう。今後、児童の様子、他の価値項目との関連も含めて、学習を進めていく必要がある。
- 児童の実態に合わせた指導が必要であるため、学年を越えた学習資料の選択が必要になってくる。また、採用されている検定教科書も多数あるため、幅広く資料を選択していくことができるはずである。同じ価値項目を続けて行うことにより、児童の意識をさらに高めることができると思われるので、さらに学習資料の幅を広げていく必要がある。
- その学習時間内での児童の変容を、ワークシートへの記述や発表、つぶやきなどにより、横断的に見ていけるようにする必要がある。特にワークシートやプリントへの記述が、年間を通しての縦断的な評価にもつながってくるため、重要となってくると思う。そのため、計画的に記述及び発表の記録をとっておく必要がある。
- 道徳科の学習のねらいと自立活動のねらいが、似ている部分が多く、道徳科の学習のねらいを達成させるためには自立活動をどこまで取り入れて学習を組み立てるのが難しい。『特別支援学校学習指導要領 第3章「道徳」』には、

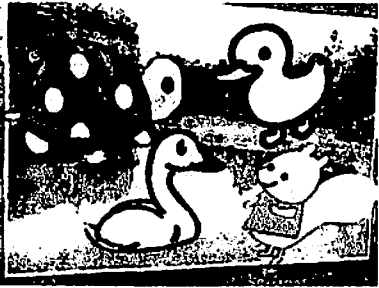

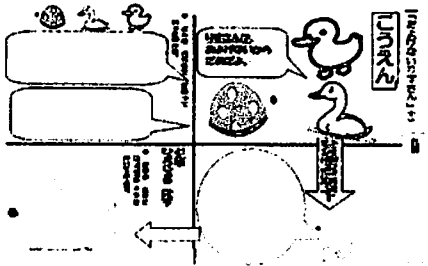
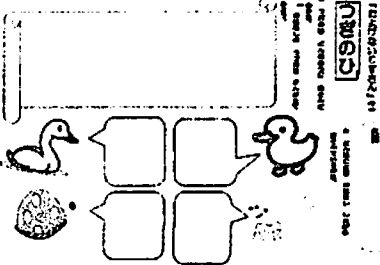
- ・健全な陣税関の育成を図る必要があること。
- ・経験の拡充を図り、豊かな道徳性を育て、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導する必要があること。
- ・内容の指導に当たっては、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。

とある。道徳教材を具体化し、体験的な活動を取り入れると、SSTやピアサポートなどとの混同されやすさがあり、指導する側に明確なねらいを絞っておく意識が必要となる。


- 評価をするにあたっては、道徳科の学習で学んだことを生かし、教科をこえて、日常生活からも見取っていかなければならない。児童・生徒との人間関係も関わってくるため、教師がアンテナを高くして、児童・生徒の変容を見取っていくという高い意識が必要になってくる。
- 特別支援学級に在籍している児童・生徒の実態を考えると、道徳科の学習を行った結果が、すぐに現れてこない場合が考えられる。評価は難しいが、児童・生徒の将来の姿を考え、指導を続けていく必要がある。

資料編

【交進小学校（平成30年10月11日実践）】

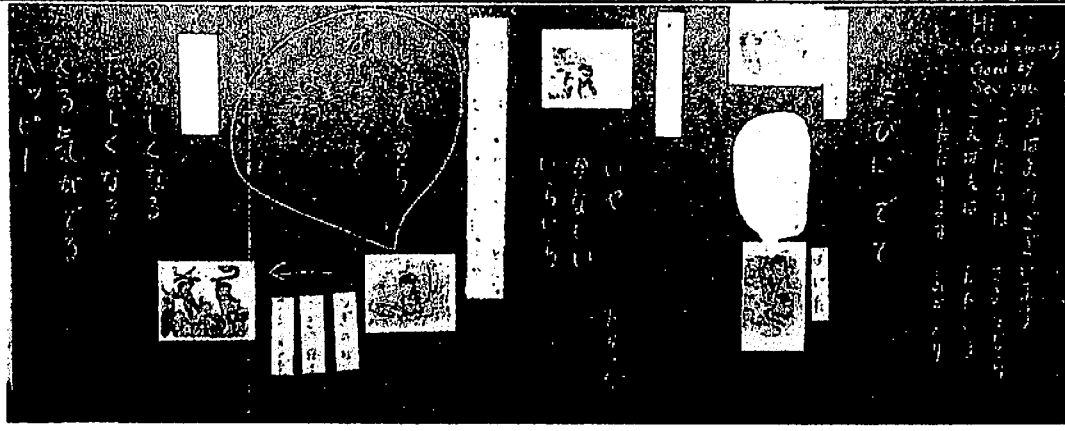
<p>児童の実態</p>	<p>(知的) 2年生1名, 4年生2名, 5年生1名 個々の障害特性がぶつかり合い, ややトラブルもあるが円滑にコミュニケーションがとれるよう気を配りながら取り組んでいる。高学年が下学年を気遣う様子が見受けられ, リーダー性も育ってきているが, お互いに気持ちの良い意思疎通ができにくい状況である。</p>
<p>価値項目の選定</p>	<p>友情・信頼 (内容項目 B-9)</p>
<p>教材(学年)の選定</p>	<p>「およげないりすさん」 出典「わたしたちの道徳」</p>
<p>授業実践(主発問)</p>	<p>「やっぱり, りすさんがいたほうがいいね」と気づいた3人は, どんなことを考えたでしょう。</p>
<p>児童の反応がわかる授業記録のまとめ(発言やノート記述, ワークシート等)</p>	<p>(それぞれの登場人物になりきって・・・) 「どんなことしたらみんながいっしょに遊べるかな。」 「いまごろ, りすさんはおこっているかもしれない。」 「りすさんがいないときみしいし, つまらないよ。」 などという意見が出た。</p>
<p>児童のその後の行動の変容(行動評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般においては, 級友とのやりとりの中で, 「ごめんね」や「ありがとう」を素直に言うことができるようになった。 ・学習中の様子では, 積極的に「だいじょうぶ?」「いっしょにやろう」「がんばれ!」という声かけをしながら, みんなで取り組もうとする姿勢が見られた。
<p>板書写真(ワークシート, 資料写真等)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>

【朝陽小学校（令和元年7月1日実践）】

<p>児童の実態</p>	<p>（知的）4年生2名、6年生2名 お手伝いなど、人のために働くことは好きだが、自分本位な考えを押しつけることでトラブルになりやすい。</p>
<p>価値項目の選定</p>	<p>公平、公正、社会主義</p>
<p>教材（学年）の選定</p>	<p>自分をコントロール</p>
<p>授業実践（主発問）</p>	<p>正しいと思ったことをするために大切なことは何だろう。</p>
<p>児童の反応がわかる授業記録のまとめ（発言やノート記述、ワークシート等）</p>	<p>「僕は、怖いからいうことはできないけど、悪いことだってわかる」 「私は勇気を出して言う」 「先生や周りの人に言う」 などという意見が出た。</p>
<p>児童のその後の行動の変容（行動評価）</p>	<p>自分の行いを気をつけたいという言葉が出ていた。</p>
<p>板書写真（ワークシート、資料写真等）</p>	

川上小学校（令和元年7月9日）

<p>児童の実態</p>	<p>1年男児（知的）、2年女児（知的）、3年男児（知的）、5年男児（知的）、5年女児（知的）、6年男児（知的）計6名</p> <p>本学級には、はずかしさから挨拶の声が小さかったり、自分から進んで挨拶ができなかったりする児童が多い。その背景には、知的な遅れから自分に自信がなかったり、TPOに合わせた挨拶がとっさに出なかったりしていることが挙げられる。</p>	
<p>価値項目の選定</p>	<p>学習指導要領のB「主として人との関わりに関すること」の〔礼儀〕を内容としている。身近な人々と接する上で、気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などを心掛けて、明るく接することが求められる。特に、気持ちのよい挨拶は、人との関わりにおいて必要不可欠なものである。さまざまな場面ではきはきとした気持ちのよい挨拶を身に付けることを通して、周りの人と明るく接することのできる児童を育てたい。</p>	
<p>教材（学年）の設定</p>	<p>「たびに でて」（小学校道徳読み物資料集 文部科学省）</p> <p>本資料は、挨拶を面倒くさいと感じている主人公「さるのケイタ」が、旅に出て、挨拶のない島にたどり着き、その島で挨拶の大切さに気付き、明るい挨拶を島に広めていくという内容である。</p>	
<p>授業実践（主発問◎）</p>	<p>児童の活動</p> <p>○普段どんな挨拶をしているか発表する。</p> <p>○資料「たびに でて」を読んで、話し合う。</p> <p>○ケイタが「あいさつじま」から旅に出た理由を考える。</p> <p>◎木の上で「あいさつじま」のことを思い出しているケイタの気持ちを考える。</p> <p>○「あいさつのないしま」に挨拶があふれだす様子を見たケイタの思いを考える。</p> <p>○振り返りをする。</p>	<p>指導の方法</p> <p>○様々な言語の挨拶について紹介し、日常、挨拶をしている場面について考えさせる。</p> <p>○場面絵を提示しながら読み聞かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじを確認し、板書する。 ・ケイタが挨拶に否定的な感情を持っていたことを抑える。 ・黙って立ち去られる場面を演じる。（役割演技） ・役割交換して、多く児童にケイタの立場を体験させる。 ・「あいさつじま」が嫌だったのにどうしてよかったと思うようになったのか自分の考えを発表させる。 <p>○「あいさつのないしま」に挨拶があふれだす場面を演じる。（役割演技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演じて感じたことだけでなく、観客としてみていて感じたことも発表させる。 <p>○気持ちのよい挨拶をしたこと、されたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を語らせ、シェアリングする。

<p>児童の反応がわかる 授業の記録（発言や ノートの記述，ワー クシート等）</p>	<p>「いつも，どんな挨拶をしていますか？」</p> <p>おはようございます。こんにちは。さようなら。こんばんは。ただいま。 いただきます。おかえり。</p> <p>「外国ではどんな挨拶をしているのかな？」</p> <p>Hi. Good Morning. Good·bye. See You.</p> <p>「ケイタが『あいさつじま』を出したのは，どうしてでしょう？」</p> <p>どこかに行きたいな。めんどうくさい。あいさつしたくないなあ。 あいさつがめんどうだ。</p> <p>『『あいさつのないしま』のケイタの気持ちをケイタになって考えてみよう』</p> <p>役割演技後の感想：いや。 悲しい。イライラ。むかつく。</p> <p>「◎ケイタは木の上で，どんなことを考えていたでしょう？」</p> <p>あいさつじまに帰りたい。友達が欲しいな。自分からあいさつしよう。</p> <p>『『あいさつのないしま』に挨拶があふれだす様子を演じてみよう。』</p> <p>互いにあいさつし合う場面を3人で案じる。役割演技後，主役のケイタ役の発言から，クラスみんな（6人）であいさつし合う場面を演じる。その後，さらに，ケイタ役から，（参観している）先生方とも挨拶したいとの発言があり，参観者（4名の教師）も一緒に10人で，挨拶し合う場面を演じる。教室中に笑顔と挨拶が溢れ出た。</p> <p>「今日の学習で，気づいたこと，わかったこと，思ったことなどを発表しましょう」</p> <p>挨拶すると，うれしくなる。楽しくなる。やる気がでる。ハッピー。</p>
<p>児童のその後の行動 の変容（行動評価）</p>	<p>児童は，交流学級の教室に入る時，自分から「おはようございます」と声に出して，挨拶するようになった。また，毎回，交流学級に行く時には，「行ってきます」，帰ってきた時には，「ただいま」と元気に言う姿が見られるようになった。</p>
<p>板書写真（ワークシ ート，資料写真等）</p>	

【八街東小学校】

生徒の実態	<p>1年生2名, 2年生1名, 3年生2名, 4年生2名</p> <p>他人との距離感や関わり方がぎこちなく, 友達のお母さんに何も考えずに抱きついてしまうこともある。女の子の膝にも平気で座っていることもある。教師や友達に対しての話し方も正しく話すことができていない。何が正しいのかわからずについて, 周りにいる児童も仲良く楽しければいいと考えている。</p>
価値項目の選定	B-8
教材(学年)の選定	自作動画
授業実践(主発問)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話すとき, どんなふうに話していますか。 (実際に教師がやってみる。) ・友達と話すときは, どのくらい離れていると話しやすいですか。 ・友達のお母さんに抱っこしてもらうことはありますか。 ・休み時間などに女の子の膝に男の子が座るのは, いいことですか。
児童の反応がわかる 授業記録のまとめ(発言やノート記述, ワークシート等)	<p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近すぎ ・抱っこはだめ。 ・「おはようございます。」って言います。 ・自分のお母さんに抱っこしてもらう。 <p>(ロールプレイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と話すときの距離は自分の腕の長さだけ離れることを, よい例と悪い例をやってみせる。 ・子ども同士でもやってみる。 <p>(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近すぎではいけないことがわかりました。 ・膝の上に座ったらいけないので, これからやらない。
児童のその後の行動 の変容(行動評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のお母さんに甘えて抱っこしてもらう姿が見られなくなった。 ・朝の時間にお母さん方に挨拶したり, ボランティア掃除をしたりできるようになった。 ・休み時間に, 女の子にやたらと接触する様子は見られなくなった。

【八街北小学校】

生徒の実態	何事も自分対教師であり、友達どうしのつながりが上手くできず自分勝手な考えから乱暴な言動が飛び交うことも多く見られた。
価値項目の選定	B-6 親切, 思いやり
教材(学年)の選定	1年生1名, 3年生2名, 5年生1名, 6年生1名
授業実践(主発問)	くまの後ろ姿をいつまでも見送っていたおおかみは, どんな気持ちだったでしょう。
児童の反応がわかる授業記録のまとめ(発言やノート記述, ワークシート等)	資料を大きく, ペープサートで作ることで話の内容, 場面が捉え易く, それぞれ登場する動物の気持ちを考えることができた。 役割演技をすることで, おおかみの気持ちを自分の言葉で言い表すことができた。
児童のその後の行動の変容(行動評価)	主発問で使ったくまを見送る絵を教室に掲示し, 価値を思い起こせるようにした。
板書写真(ワークシート, 資料写真等)	<p>今</p> <p>熊を見送る おおかみの 絵</p> <p>やさしい</p> <p>ありがとうございます、ごめんね。 くまさんみたくになりたい。 こんどから、いじわるはしない。</p> <p>はじめ</p> <p>はしの上のおおかみ</p> <p>いじわる たべられちゃう</p> <p>うさぎ きつね たぬき</p> <p>こいつめ とおらせないぞ おもしろい</p> <p>いらいもち いぶん嬉しい いぶん嬉しい</p> <p>びっくり いばれるかも つよそうだな どうぞ、おさきに</p> <p>おさき おさき おさき</p>

【笹引小学校（令和元年7月5日実践）】

児童の実態	本校ハーモニー学級1組（自閉症・情緒障害）の2年生は男子1名、女子1名、計2名の在籍で普段の道徳の授業は、ハーモニー学級1組で行っている。低学年ということもあり、その場での適切な判断ができないことも多い。そこで、2年道徳の教科書はばたこう明日へ2の学習教材「教えていいのかな」価値項目(A-3 節度, 節制)を実施した。
価値項目の選定	価値項目 (A-3 節度, 節制)
教材(学年)の選定	「教えていいのかな」 出典「はばたこう明日へ2」
授業実践(主発問)	・あなただったら電話番号を教えますか。電話番号を教えてもよいと思いますか。
児童の反応がわかる授業記録のまとめ(発言やノート記述, ワークシート等)	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしは電話番号を教えません。 ・わたしは、いつも電話にでません。 ・電話番号は教えない方がいいと思う。
児童のその後の行動の変容(行動評価)	・行動評価についてはまだ、観察中。
板書写真(ワークシート, 資料写真等)	

【八街中学校（令和元年4月25日実践）】

生徒の実態	<p>中2, 3 生徒男女（情緒）</p> <p>毎日出される日々の食事や給食でおかわりができることを当たり前のことのように感じて過ごしている。</p>
価値項目の選定	<p>かけがえのない命（D-19 生命の尊さ）</p>
教材（学年）の選定	<p>ハゲワシと少女（「とび出そう未来へ 中学道徳 3」（教育出版）</p>
授業実践（主発問）	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、どんなことを感じたか。 ◎「かけがえのない命」を守るためにはどうすればいいのだろう。
児童の反応がわかる授業記録のまとめ（発言やノート記述、ワークシート等）	<p>（発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人間でも、こんなに違うのだと思った、とてもかわいそう。 ・とてもショック、日本と環境が違ってびっくりした。 <p>（ノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本からたくさんの栄養剤や食料をスーダンに送ることができないのかと思った。・海外ボランティアを増やす。 ・日本以外の外国の裕福な国が協力して送るとよい。
児童のその後の行動の変容（行動評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に、一人の女子が「このカメラマンがこの写真を撮ってくれたからこそ、皆が『道徳』で学ぶことになり、世の中の人々がスーダンの現状を知ることになったのだから良かった」と思うと伝えてくれた。 ・話し合いを通して、生命に対する理解を深め、どの生徒も自分・社会・国が、今何ができるかを考え、たくさん提案することができた。
板書写真（ワークシート、資料写真等）	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの生徒が少ないことと、黒板を使つての授業に抵抗のある生徒がいるため、板書はせずに生徒と同じ目線で、話し合いの場に加わりながら授業を行った。 ・考えを発言することが苦手な生徒もいるが、ノートにしっかり書き残しているの、それでもOKであると日頃から本人に伝えている。

【八街南中学校（平成31年3月1日実践）】

生徒の実態	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なところでごまかすことが多く、信頼を欠き人間関係を形成できない。
価値項目の選定	B-8 友情, 信頼
教材（学年）の選定	先輩（「とび出そう未来へ 中学道徳 2」（教育出版））
授業実践（主発問）	先輩の手紙をどう思うか
児童の反応がわかる授業記録のまとめ（発言やノート記述, ワークシート等）	<p>「同じように人の中で苦しい思いをして、がんばっている先輩がいるのだから、自分でできることは頑張ってみよう。」</p> <p>「すごく先輩が頑張っている。」</p>
児童のその後の行動の変容（行動評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を振り返り、同じ思いで頑張っている先輩がいて、自分も頑張らなきゃと勇気づけられた。その後、見栄やプライドが少し目立たなくなり、支援学級内で後輩の手助けをよくしている。
板書写真（ワークシート, 資料写真等）	

特別支援学級 道徳の取り組みと考察

八街中央中学校

【取り組みの内容】

- ・道徳の授業は週1回、水曜日の1時間目。
- ・学年ごとに、成長過程に合わせた課題に取り組んでいるため、題材が異なっている。
- ・授業では教科書・ワークシートを使用。道徳ノートに貼っていき、成長をみとる。

【生徒の実態】

<知的学級>

- ・11名在籍。(1年：3名、2年：3名、3年：5名)
- ・素直でまじめな生徒が多い。
- ・人の気持ちを考えて行動したり、空気を読んだりすることが苦手な生徒が多い。
- ・文章を書くことが苦手な生徒が多いため、ワークシートは特によく書けている生徒2名分を抽出した。

(2年生、3年生)

<情緒学級>

- ・情緒学級は、交流学級に入り、道徳の授業を受けているため、学級で道徳の授業を行った実態はない。

【成長の見取り～2名の生徒の様子から～】

<2年生の生徒の授業の様子・ワークシートより>

- ・4月当初は、ワークシートに表記する言葉は話し言葉が多く、道徳の授業への取り組みもいまいち深みに欠けるような部分があった。
- ・道徳の授業では、積極的に意見を発表する。発問に対し、必ず自分の意見を持つことができる。
- ・話し合いの場面では、仲間と積極的に意見を交換し、話し合いを通して考えを深めたり、最初に考えた自分の意見を改めて再認識したりすることができた。
- ・道徳の授業を通して、自分の生き方を見つめ、それが日ごろの学校生活に還元された部分があった。

<3年生の生徒の授業の様子・ワークシートより>

- ・4月当初は、自分の意見ばかり押し通したり、人の話を最後まで聞かずして判断してしまったりすることがあった。
- ・話の全体像をとらえたり、空気を読んだ行動をとったり、仲間を思いやったりすることが難しい生徒であった。
- ・6月に道徳校内授業研修があり、交流学級担任が道徳の授業を行った。彼も、この日は交流学級の道徳の授業に参加し、意見が似ている者でグループをつくって、仲間と意見を交わした。
- ・道徳の授業の回数をかさねるごとに、自分の立場や置かれた状況を判断したり、仲間のことを思いやったりする場面が増えてきた。

【考察】

- ・道徳の授業の回数をかさねるごとに、生徒の考え方・言葉遣い・生き方に変容が見られた。
- ・相手の立場やさまざまな状況から、自分の取るべき行動を選択することができるようになってきた。
- ・書くことが苦手な生徒が多いので、ワークシートだけでなく、さまざまな見取りの方法が必要。
- ・授業の形態も、ペアや小グループでの話し合い等を行うなど、工夫が必要である。

【八街北中学校（令和元年6月7日実践）】

生徒の実態	中2 A児（知的） （交流授業で実施） 優しく、友達のことを思いやって生活することができる。
価値項目の選定	B-8 友情, 信頼
教材（学年）の選定	本当の友達って（「とび出そう未来へ 中学道徳 2」（教育出版）
授業実践（主発問）	◎本当の友達とはどういう存在のことだろうか。
児童の反応がわかる授業記録のまとめ（発言やノート記述, ワークシート等）	（ノート） ・楽しむときは楽しむが、悪いときは怒る。 ・優しく接してくれる人。一緒にいて楽しい人。
児童のその後の行動の変容（行動評価）	・周りを見渡し、先輩や友達が困っていれば手助けをすることができた。
板書写真（ワークシート, 資料写真等）	・板書はあまりせず、意見をワークシートに書かせる方法で授業を進めた。書けるところのみ書いた。